

## 生物進化の謎を解く—人類の進化までを含めて解説

猪 貴義 著

岡山大学名誉教授

岡山実験動物研究会名誉会員

岡山実験動物研究会の名誉会員でもあり、長年におわり研究会の発展に寄与されてきた猪先生が、今年の6月に新著を著した。これは「生物進化の謎を解く」というタイトルからわかるように進化論を扱った本である。また、「人類の進化までを含めて解説」という副題がついており、最近の人類の進化に関するトピックなども内容に含まれている。

生物進化の本質をめぐる論争は生物学の主要な課題のひとつで、このテーマを扱っている著書も数多く出版されている。その中で本書の特徴は、進化を考える上で基礎的な事柄である生物の多様性から筆をおこし、進化に関わる古生物学的論証、進化学説の発展史、遺伝の仕組みから進化に関わる最近のトピックまで広く解説している点にある。かなり広がりをもった課題を扱っているため焦点を絞りにくかったのではないと思われるが、要領よくまとめられており、進化に関わるテーマを概観するには最適の良書といえる。

先生のキャリアの大部分が、進化学の実用分野といえる動物遺伝育種学に関連していたためか、本書の中心には進化学説の解説が占めている。その中でもダーウィンの進化論については、ダーウィンの「種の起源」について章を追って詳しく解説されている。これは、ダーウィンの自然選択説が進化論の中で最もインパクトを持ち、現在の進化学はもちろんのこと、20世紀以降の社会、経済、国家体制などにも多大な影響を与えているためであろう。また学術的にはこの進化論が端緒となり、その理論体系を証明するために生物学に関連した多くの学問分野が生まれ発展してきた。それらの分野には、遺伝学、育種学、生態学、統計学など多くの領域が含まれ、生物学の基礎を形成している。ところが「種の起源」を一念発起して読もうとすると、なかなか読み進むことが難しい。これは、事象をひとつひとつ丹念に積み重ねていくと

いうダーウィンの探求法によるもので、読みこなすにはかなりの忍耐力を必要とする。この点、本書はダーウィンの進化論の概略が要領よくまとめられており、科学史上有名なダーウィン進化論を短時間で理解するには好適な著書といえる。また、最近関心を集めている大量絶滅の話題などのトピックも解説されており、関心のある部分だけを拾い読みするという利用の仕方でもできる。

著者の猪先生の経歴についてはご存知の方も多いと思われるので簡単に紹介する。先生は若い時から生物の進化機構に強い関心を持っていたと聞いている。大学では、進化機構の解明を実学の方から探求された動物遺伝育種学者であり、国の研究機関および岡山大学での研究生生活を終えた後は、いくつかの大学で教鞭をとられ、現在も活躍されている。本書を著すことになった最大の動機は、先生が岡山大学に在職中、1年次生向けの「生物の進化を考える」の講義を分担し、学生たちの強い関心に触発されたとのことである。この著書は先生が定年退官された後も精力的に探求してこられた進化論について、進化学説の発展過程や歴史的経過を含めてまとめたもので、進化に関する概略を知りたい方に貴重な一冊となるであろう。(岡山大学教授 及川卓郎)

発行 2004年6月7日

頁数 223

ISBN4-900659-43-6

価格 1,500円

発行 株式会社アドスリー

〒164-0003 東京都中野区東中野 4-27-37

TEL:03-5925-2840 FAX:03-5925-2913

発売 丸善株式会社出版事業所

〒103-8245 東京都中央区日本橋 2-3-10

TEL:03-3272-0521 FAX:03-3272-0693